

令和2年度事業報告書

令和2年7月1日から令和3年6月30日まで

特定非営利活動法人ふるさと未来創造堂

1 事業の成果

令和2年度は、引き続き中期ビジョン『『つながる』『つなげる』『仲間と拓く』新潟の防災教育を、みな（学校・地域・家庭・行政・企業・NPO等）で創るふるさと共育にする』の実現に向けて、以下の3点を重点に様々な活動に取り組んだ。

- ・ より一層の連携・協働を進め、共感の輪を「ふるさと共育化」への推進力にする
- ・ 地域の教育力を結集し、学校防災教育をまちで支える仕組みを創る
- ・ よりよい未来の新潟を子どもと一緒に創る仲間を増やす

また、終息が見通せない新型コロナウイルス感染症の拡大に備え、いかなる状況下でも防災・減災について学ぶ機会が継続できるようICTの活用を通して、人がつながる場づくりとしての情報発信事業にも力を入れた。

令和2年度に実施したふるさと未来創造堂の事業詳細については、別紙のとおり。

① 学校防災教育の支援事業

1) 地域防災教育事業（長岡市）

校区内に居住し学校の理解者となるサポーターの育成を進め、○校、○名にサポーターを配置することができた。長岡版マイ・タイムライン「わが家の防災タイムライン（小学4～6年生用、中学生～大人用）」の作成及び普及啓発を行った。

2) 「大きな川の災害に備えよう～豪雨防災教育プログラム～」の作成支援業務

国立研究開発法人防災科学技術研究所 災害過程部門が宮城教育大学等と連携して研究・開発を進めている「大きな川の災害に備えよう～豪雨防災教育プログラム～」の作成支援業務として、長岡市内小中学校の防災教育実態調査、開発プログラム実証実験の記録、現職の教員を招いての効果検証支援、教師用資料の作成支援、映像教材の作成を行った。

3) 南区中学校防災教室及び白根高校防災学習支援業務（新潟市南区）

区内の中学校及び白根高校を対象に、地域と連携した防災教育を実践した。新型コロナウイルス感染症（以下、新型コロナとする。）拡大の影響を受け、6中学校中2校が中止となった他、防災士や地域住民を巻き込む活動が困難となったため、4中学校及び白根高校の活動時に外部講師をコーディネートする等して、プログラムの質的向上を行った。

4) 西蒲区巻東中学校・巻西中学校防災体験学習及び西蒲区中学校防災体験学習及び事業の中間評価のための調査業務（新潟市西蒲区）

「福祉×防災」の視点での防災教育を地域の大人・防災士と中学生がともに学ぶ機会の提案とコーディネートを行った。新型コロナ対策を兼ね、身近なもので作れる感染症対策グッズの体験をプログラムに加える等、工夫して事業を実施した。

② 地域及び家庭の防災教育支援事業

- 1) コミュニティ協議会や自治会、地域住民を対象に、洪水マイ・タイムラインの作成講座やタイムラインの考え方を踏まえた防災マニュアルの検討等を行った。
- 2) 社会福祉協議会や公民館事業にて、親子を対象としたオンライン防災講座（パッキングの体験）を計2回延べ12人に実施した。
- 3) 子育て支援施設や行政の実施する事業に「+防災の視点」で企画等を提案し、子育て×防災、食育×防災の講座や母子向けの防災講座を実施した。

③ 防災教育の推進に関する交流・イベント事業

- 1) イザ！カエルキャラバン in ながおかの開催（長岡市中越メモリアル基金事業）
非日常の防災をいつも（日常）の防災にすることを目指して、親子で楽しみながら体験的に防災を学べる機会を開催し、小学生スタッフを含め約80人がイベントに参加した。
また、実施報告書を広く配布したことで、次年度の新規事業の獲得につながった。

④ 安心安全なまちづくり及び地域づくりの支援事業

- 1) 新潟市南区防災訓練資料集制作業務（新潟市南区）
新潟市南区内の各自治会が、学校と連携した防災訓練の実施や地域防災力を高める活動を支援する資料集を作成した。
- 2) 新潟市北区防災士の会スキルアップ事業（新潟市北区）
北区防災士の会の計4回の意見交換会の企画運営を行い、より多くの住民に伝わりやすい河川別ハザードマップの作成支援を行った。完成した北区河川別ハザードマップは令和3年に全戸配布され、現在は説明会用の資料作成や伝わる伝え方を学ぶ研修等を実施している。
- 3) 在住外国人防災ワークショップ（新発田市・胎内市）
新発田市・胎内市の在住外国人と日本人とが一緒に学ぶ防災講座を実施した。今年度は災害時の情報収集アプリを活用したワークショップや避難所生活の困りごとを解決する備えや工夫等を皆で学ぶ機会を実施した。

⑤ よりよい未来を創る事業

- 1) こども防災未来会議@2020 及びかべ新聞展示会の開催（長岡市中越メモリアル基金事業）
新型コロナ対策を徹底し、防災について学んだ子どもの成果発表と交流、創造の機会をオンラインとオフラインのハイブリッド形式のイベントとして開催した。応募作品数は過去最高の104点となり、いかなる状況下でも学びの成果を発信する機会の必要性を実感した。

⑥ 情報発信事業

- 1) オンラインイベントの開催や動画コンテンツの作成・配信
ICTを活用して、県内外の大人や親子を対象にオンライン防災講座（家族防災会議、洪水マイ・タイムラインの作成等）を計6回延べ46人に実施した。ヨガ×防災による子ども向けオンライン朝活「のびすく！」を計6回延べ40人に実施した。

(株) エヌ・シィ・ティと共同で防災に関する動画コンテンツの作成・配信を行った。
 情報発信事業として実施した自主事業が、オンライン講座の依頼や動画コンテンツ作成等の
 新規事業獲得につながった。

次年度も安心・安全なよりよい未来の新潟を創るひとづくり・まちづくりとして提案する「ふる
 さと共育」の形を、教育や防災関係者、まちづくりに携わる関係者等と検討する1年にしていく。

2 事業実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

(単位：千円)

事業名	事業内容	実施 日時	実施 場所	従事 者数	受益対象者の 範囲及び人数	支出額
①学校防災教育 の支援事業	1) 地域防災教育 事業	1)、3)～ 5) 年度当初か ら年度末	1) 長岡市	5人	1)～5) 県内外の小・中学 校、高等学校の教 員及び児童生徒、 保護者、地域住 民、防災・教育関 係団体 等	5,400
	2) 「大きな川の災 害に備えよう～ 豪雨防災教育プ ログラム～」の 作成支援業務	2) 令和2年9 月～令和3 年2月	2) 長岡市	3人		2,820
	3) 南区中学校防災 教室及び白根高 校防災学習支援 業務		3) 新潟市	3人		989
	4) 西蒲区巻東中学 校・巻西中学校防 災体験学習及び 西蒲区中学校防 災体験学習及び 事業の中間評価 のための調査業 務		4) 新潟市	3人		1,740
	5) その他事業		5) 全国	3人		1,377

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者数	受益対象者の範囲及び人数	支出額
②地域及び家庭の防災教育支援事業	1) 各種講座	1) 年度当初から年度末	1) 新潟市・長岡市	3人	1) 県内の未就学児、小・中学生、保護者、地域住民、防災・教育関係団体等	980
③防災教育の推進に関する交流・イベント事業	1) イザ!カエルキャラバン in ながおか	1) 令和3年3月上旬	1) 長岡市	5人	1) 長岡市内の幼・保育園や小学校に通う児童と保護者等	676
④安心安全なまちづくり及び地域づくりの支援事業	1) 新潟市南区防災訓練資料集制作業務	1) 年度当初から令和3年3月	1) 新潟市	2人	1) 新潟市南区の自治会及び防災士等	818
	2) 新潟市北区防災士の会スキルアップ事業	2) 年度当初から年度末	2) 新潟市	2人	2) 新潟市北区防災士の会所属の防災士等	742
	3) 在住外国人防災ワークショップ	3) 年度当初から令和2年10月	3) 新発田市	3人	3) 新発田市及び胎内市在住の外国人等	460
	4) その他講座等	4) 年度当初から年度末	4) 県内全域	2人	4) 県内の自治会・防災士・地域住民等	
⑤よりよい未来を創る事業	1) こども防災未来会議 [®] 2020の開催及び県内3箇所での防災かべ新聞展示会	1) 年度当初から令和3年3月	1)、2) 長岡震災アーカイブセンターきおくみらい他	16人	1)、2) 県内の小・中学校の教職員と児童生徒、保護者、地域住民、防災・教育関係団体等	868
	2) こども防災未来会議 [®] 2021の開催及び県内3箇所での防災かべ新	2) 令和3年4月から年度末				252

	聞展示会					
事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者数	受益対象者の範囲及び人数	支出額
⑥情報発信事業	1) オンラインイベントの開催や動画コンテンツの作成・配信	1) 年度当初から年度末	1) 長岡市	2人	県内外の小・中学生、保護者、地域住民等	262
⑦その他事業	1) ICTツールの活用に関する研修会	1) 年度当初から令和2年10月	1) 長岡市	2人	対象法人のスタッフ	147

参考資料 1 サポート実績一覧 (2020. 7. 1～2021. 6. 30)

学校（小学校・中学校・高等学校・特別支援学校）及び教育委員会等

○防災教育等に関するサポート **202校4団体**

講座、研修会等 105回

打合せ、相談、コーディネート等 350回以上

新発田市教育委員会 生涯学習課	上越市教育委員会 学校教育課	長岡市教育委員会 学校教育課
新発田市立の全 15 小学校	上越市立の全 70 小・中学校	長岡市立の全 82 小・中学校
阿賀野市立笹神中学校	魚沼市立堀之内中学校	柏崎市立新道小学校
三条市立旭小学校	三条市立井栗小学校	三条市立一ノ木戸小学校
三条市立第四中学校	三条市立保内小学校	胎内市立黒川小学校
燕市立小池中学校	燕市立燕南小学校	新潟市立味方中学校
新潟市立臼井小学校	新潟市立臼井中学校	新潟市立漆山小学校
新潟市立大野小学校	新潟市立小須戸小学校	新潟市立小須戸中学校
新潟市立小針中学校	新潟市立白根第一中学校	新潟県立白根高等学校
新潟市立月潟中学校	新潟市立中之口中学校	新潟市立西川中学校
新潟市立白山小学校	新潟市立白南中学校	新潟市立巻西中学校
新潟市立巻東中学校	新潟市立巻南小学校	新潟大学附属新潟中学校
新潟県立新潟県央工業高等学校	見附市立今町小学校	見附市立今町中学校
見附市立葛巻小学校	見附市立新潟小学校	新発田市青少年宿泊施設 あかたにの家

地域・団体・企業等

○地域防災や防災教育の相談、講師、イベント、研修会等 35 団体 延べ 70 回以上

株式会社エヌ・シー・ティ（子ども向け防災教育映像の共同作成）
京都女子大学発達教育学部・教育学科（東山区住民の防災力向上支援プロジェクトの支援）
（公社）中越防災安全推進機構（中越大震災メモリアル基金事業、中越市民防災安全大学での講義）
国立研究開発法人防災科学技術研究所災害過程研究部門（豪雨防災教育プログラムの開発支援）
新潟市市民まちづくり支援課（在住外国人防災セミナー）※共催：胎内市
胎内市総務課（令和2年度 胎内市防災セミナー）
東京電力ホールディングス株式会社 新潟本部（学校・地域向けの防災教育の相談及びコーディネート）
特定非営利活動法人村上 ohana ネット（保護者向け防災講座の相談）
特定非営利活動法人多世代交流館になニーナ（ICT ツールの活用・動画作成講座）
特定非営利活動法人くらしサポート越後川口（親子向け防災イベントの相談）
長岡技術科学大学（防災ワクチン TM 学習教材の開発支援業務）
長岡市川崎コミュニティセンター（地域向け洪水マイタイムラインの作成講座）
長岡市子育ての駅 すこやか・やまっこ（母子向け防災講座）
長岡市阪之上コミュニティセンター（オンラインでの親子向け防災クッキング講座）
新潟県魚沼地域振興局健康福祉部（災害時食のセーフティーネット検討会）
新潟市秋葉区社会福祉協議会（オンラインでの親子向け防災クッキング講座、市民向け防災講座）
新潟市北区地域総務課（北区防災士の会スキルアップ事業、自治協議会防災イベント事業の相談・提案）
新潟市北区豊栄地区公民館（コミュニティコーディネーター養成講座）
新潟市北区長浦コミュニティセンター（長浦地区防災訓練自治会防災マニュアル研修会）
新潟市西区総務課（新潟市立小針中学校における防災合宿の企画支援及び相談、当日の講座）
新潟市西地区公民館（母子向け防災講座）
新潟市西蒲区石瀬地区自主防災会（地域における実践的な防災訓練の相談）
新潟市文化創造推進課（こどもプロジェクト 2020 親子向け防災講座）
新潟市南区地域総務課（南区防災訓練資料集の作成、南区防災&感染症対策セミナー）
パソコンサプリー（受講生夏休み防災講座）
兵庫県立大学院大学院減災復興政策研究科（講義）
ほっとカフェ（母子向け防災講座）
ホリカフーズ株式会社営業部（親子向け防災イベントでの連携、学校とのコーディネート）
株式会社明治 関東支社 新潟オフィス（親子向け防災イベントでの連携）
長岡市青葉台地域連合自主防災会（青葉台中学校区 合同防災訓練の企画支援）
長岡市宮本地域連合自主防災会（青葉台中学校区 合同防災訓練の企画支援）
長岡市大積地域連合自主防災会（青葉台中学校区 合同防災訓練の企画支援）
長岡市青葉台コミュニティセンター（青葉台中学校区 合同防災訓練の企画支援）

参考資料2 メディア等で取り上げられた活動 (2020. 7. 1~2021. 6. 30)

1) 学校の防災教育支援事業

NHK 2020/10/12 新発田市立東小学校

NHK NEWS WEB 2020年 (令和2年)
新潟 NEWS WEB

キャンプで児童が避難所生活学ば
10月12日 14時56分

去年、関東甲信越の各地に甚大な被害をもたらした台風19号の災害から1年となる12日、新発田市では「防災キャンプ」が行われ、子どもたちが避難所での過ごし方や身近にあるものを使ってスリッパや担架を作る方法を学びました。

「防災キャンプ」には新発田市立東小学校の4年生70人余りが参加しました。防災教育を支援する長岡市のNPO法人が講師として招かれ、実際の避難所の様子を撮った写真を示しながら、ふだん通う学校の体育館も避難所になることや赤ちゃんからお年寄りまで幅広い人たちが集まり、協力して生活を送ることなどを説明しました。

そして、災害時に身近にあるものを使って生活用品を作る方法を学び、子どもたちは講師の手ほどきを受けながら、新聞紙を折りたたんでスリッパを作り、履き心地を確かめていました。

また、2本の木の棒に毛布を巻きつける「担架作り」も体験し、出来上がった担架に友達を乗せて運んでいました。

男子児童の1人は「毛布で担架を作ることができてびっくりしました。きょう習ったことを生かして、自分とみんなを守りたい」と話していました。

新発田市教育委員会の荒木一成さんは「災害に備えて、ふだんの生活を見直すきっかけにしてほしい」と話していました。

UX 2020/7/27 見附市立葛巻小学校



新潟日報 2020/12/23

長岡市「地域防災教育事業」

「わが家の防災タイムラインシート」作成

長岡市「地域防災教育事業」学校サポート

NHK 2021/3/9 長岡市立千手小学校

※TeNY テレビ新潟でも放送



マイ・タイムライン
避難行動計画普及に力

市、小4~6年用配布
防災教育で活用

長岡市が小学4~6年生用に作成した避難版のマイ・タイムライン

長岡市は、洪水の避難準備を時間の経過についで進め、川の水が冷たくなったり増えてきたりしている状況で安全だと思わないで、川で慌てず「浮いて待つ」訓練を受けた見附市の小学生が、訓練を受けた。中野 雅嗣 講師、NPO法人と未来創造堂。

国や自治体のさまざまな情報に基づき、自宅の周辺や通学路、避難場所、避難経路、避難物資の確保など、避難行動の準備を促す。市は、マイ・タイムラインを活用し、防災教育を推進する。中野さんは、子どもへの防災教育を推進する。中野さんは、子どもへの防災教育を推進する。中野さんは、子どもへの防災教育を推進する。

西蒲区「西蒲区巻東中学校・巻西中学校
防災体験学習委託業務」

新潟日報 2020/12/8 新潟市立巻西中学校



西蒲区「西蒲区中学校防災体験学習及び事業の中間評価のための業務」

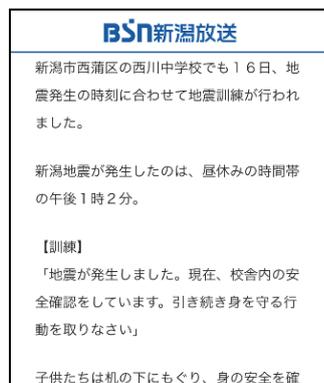
2021/6/16 実施 新潟市立西川中学校

毎日新聞 2021/6/17

新潟日報 2021/6/19



2021/6/16 NHK、TeNY テレビ新潟、UX 新潟テレビ 21、BSN 新潟放送、NST の夕方ニュースで放送



2) 地域及び家庭の防災教育支援事業

新潟日報 2020/9/20

川崎コミュニティセンター防災講座



TeNY テレビ新潟

「長岡市新型コロナウイルス感染症にまけない市民活動団体奨励金」を活用したオンライン講座紹介

「のびすく!」「みんなのBosai カフェ」



3) 安心安全なまちづくり支援事業

新潟日報 2020/10/7

在住外国人防災セミナー

外国人と助け合い



4) よりよい未来を創る事業

新潟日報モア 2020/12/12

新潟日報 2020/12/13

こども防災未来会議®2020



令和2年度（特非）ふるさと未来創造堂の実施事業

1. 学校防災教育の支援事業

<長岡市地域防災教育事業委託>

委託機関：長岡市危機管理防災本部

実施期間：令和2年7月～令和3年6月

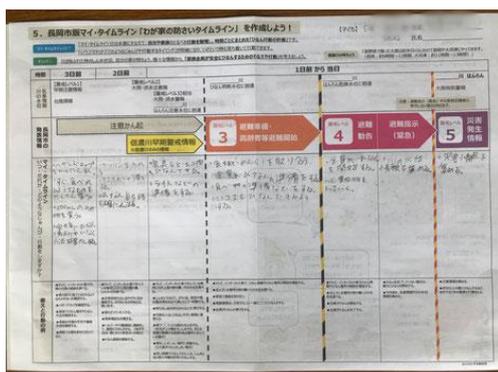
長岡市では、学校の負担軽減と地域と連携した持続可能な防災教育の推進を目指している。防災教育を行う際に参考になるプログラムや資料などが入っているコンテンツ「防災玉手箱」を平成29年に市内全小・中学校に設置。同時に、地域のサポーターが定期的に学校を訪問する仕組み作りや、講師派遣・授業計画時の相談等の総合窓口を当法人で担当している。

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
個別相談・打合せ	27回	47回	92回	71回
講座実践 (講師派遣含む)	35回	69回	51回	58回
その他(教材・資料の 提供・貸出等)	7回	30回	50回	86回
合計	24校 69回	47校 146回	40校 193回	27校 215回

防災士、地域の保護者等、立場が様々な方が皆で学校防災教育をサポートする形を継続して5年。毎年行う学校訪問が地域と顔の見える関係性の構築し、担当教員の交代や異動後もサポートを受けながら取組の継続・発展につながってきている。

長岡市立栖吉小学校 洪水から逃げるタイミングは？川ごとに確認！「洪水マイ・タイムライン」を作成しよう！

令和2年7月20日(木) 9:35～11:25 対象：第5学年



川があふれた時、自分の住んでいる場所がどうなるのか洪水災害ハザードマップを使って調べ、洪水災害から命を守るための行動や情報について学習をした。どのタイミングでどのような準備や行動をするかを考え、作成した避難行動計画を家庭に持ち帰り、家族で相談する機会とした。

7.13 水害の映像の中で、自宅周辺が浸水し助けを待っていた方の話を聞き、「助けにきてくれるかな」「どうやって過ごしたんだろう」「体調が悪くなったらどうしよう」「自分が1人だったらどうしよう」と不安を共有し、日ごろからの準備の大切さを感じていた。

長岡市立四郎丸小学校 中止となった修学旅行の代わりに楽しい思い出を！学校宿泊型防災キャンプ

令和2年8月28日(金) 13:50～14:40 対象：第5学年



「中止となった修学旅行の代わりに、なんとか宿泊体験をさせてあげたい」先生方のこの思いから、長岡市立四郎丸小学校の5年生が感染症対策をして学校宿泊型防災キャンプを行った。

避難所生活を体験して子どもたちが自分たちで行動できる力をつけるためにどのようなプログラムが良いか先生と検討し、以下の内容を実施した。

①防災学習(全員参加)

「避難所の困りごとを知り、自分たちにできることを考えよう」

②放課後 避難所体験活動(希望者制)

「避難所生活を乗り切る準備をしよう」

①はZoomで各教室をつなぎ、グループワークで避難所生活や困りごとについてイメージを膨らませ、自分や家族、地域の人が安心して生活するために自分たちに何ができるか考えることができた。②では、1教室5～6人程度に分かれ、段ボールや自分で持ってきた道具を使い、密にならずにプライベートも守れる寝床づくりや防災グッズ作りを行った。段ボールで棚や仕切りを作ったり、ゴミ箱を作って分別をしたりと、防災学習を活かし、自分たちで考え工夫をしている様子が見られた。

<「大きな川の災害に備えよう～豪雨防災教育プログラム～」作成支援業務>

委託機関：国立研究開発法人防災科学技術研究所 災害過程部門 実施期間：令和2年9月～令和3年3月

国立研究開発法人防災科学技術研究所 災害過程部門（以下、防災科研）が宮城教育大学等と連携して研究・開発を進めている「大きな川の災害に備えよう～豪雨防災教育プログラム～」について、以下1）～4）の作成支援業務を実施した。

1) 長岡市における小中学校の防災教育実態調査及び実証実験の効果検証支援業務

- ・平成30年度から長岡市立の小中学校（全82校）が取り組んでいる防災教育の内容について情報を整理し、取りまとめた。
- ・令和2年に防災科研が長岡市立千手小学校第4学年（以下、モデル校）を対象に試行実践した豪雨防災教育プログラム案を、同市の他校でも実践可能なプログラムとして一般化を目的に、同市の小学校教諭6名とプログラムの教育効果をより高める工夫や自校で取り組む際に必要な教材や支援について意見交換を実施した。 ※新型コロナ禍のため、オンラインで開催。



2) 「信濃川の豪雨防災教育プログラム」実証実験の記録資料作成業務

- ・令和2年に防災科研がモデル校を対象に試行実践した豪雨防災教育プログラム案の様子の記録及び関係者への映像配信等を実施した。



3) 気象災害に関する学校防災教育プログラムの教師用資料作成支援業務

- ・防災科研がモデル校を対象に試行実践した豪雨防災教育プログラム案に、
1) 効果検証での教員の意見を反映させた、カリキュラム・指導案・教材資料等の作成支援を行った。

4) 豪雨防災教育映像教材の編集事業

- ・1) 及び3) を経て完成した「大きな川の災害に備えよう～豪雨防災教育プログラム～」のPR映像及び各実践のダイジェスト映像の作成、平成23年新潟・福島豪雨時と令和元年台風19号時の長岡市千手地区の様子に関するインタビューの実施及び映像の撮影・編集作業を行った。



<新潟市南区内中学校防災教室及び白根高校防災学習支援業務>

委託機関：新潟市南区地域総務課 実施期間：令和2年7月～令和3年3月

南区内の中学校及び白根高校の生徒が災害時に地域の一員として活躍する姿を目指して、防災面における自助・共助・公助についての学習、体験する場を設けた。

4中学校の防災教室は、「地震」「水害」「火災」など各学校の学習テーマに合わせて協議のうえ決定した。

白根高校防災教室は、高校3年生を対象に、避難所で高校生にできることについて、体験を通して考える学習を行った。

新潟県立白根高等学校 災害時の避難所で高校生にできることは？（車いすの操作体験・ダンボールベッド作り体験）

令和2年12月4日（金）13:30～15:20 対象：第3学年



災害時の避難所の様子や感染症対策、避難所運営について学習した後、グループに分かれ交代して2つの体験を行った。

運営に関わる人も、被災者同様に不安や悩みを抱えていることを知り、体験や地域の一員として自分たちにできることを話し合う活動に積極的に取り組んでいた。

「認知症の祖母の介護援助をした経験を活かして、ご年配の方々の補助を積極的に行きたい。」「不安な気持ちを持っている人に優しく声をかけて助けたい」「この経験を活かして災害時に自分から率先して行動していきたい」という感想があった。

<西蒲区巻東中学校・巻西中学校防災体験学習委託業務>

委託機関：新潟市西蒲区地域総務課 実施期間：令和2年10月～令和3年2月

西蒲区は8区で最も高齢化率が高く、2031年には高齢化率が37.8%になると予想されている。そのため、地域の未来を担う中学生への防災教育に力を入れ、学校・地域・家庭が連携し、継続していける防災共育の内容と支援体制を検討する。

令和2年度は新潟市立巻東中学校・巻西中学校の生徒を対象に、体験型防災学習プログラムの体験を通して、災害時の避難行動要支援者となる高齢者や肢体不自由等の障がいを持つ方について考える防災教育を実施した。

各校の課題や地域特性、生徒に身に付けさせたい力などを踏まえて実践的なメニューを企画・立案し、当日の運営を行った。

新潟市立巻西中学校 「福祉×防災」の視点による防災体験学習（白杖体験・車いす操作体験）

令和2年11月26日（木）13:50～16:00 対象：第1学年



災害時の避難所の様子や避難所での感染症対策について学習後、「新型コロナ感染予防対策グッズ（ハンカチマスク・感染症予防着作り）」を体験。その後、「白杖を使用したブラインドウォーク・車いす操作体験」を2人1組で体験。視覚障がいの方から「様々な人を安全に誘導できるように、この経験を活かしてください」との講評があった。

【参加者の声】

・周りに障がいをもっている人がいたら、どんな手助けをしたらいいのか考えて助けることが大切だと思った。

<その他学校防災教育支援業務>

委託業務以外での講師派遣や学習計画の相談・立案・資料提供などの支援業務 県内108校

- ・ 新発田市教育委員会「小学校防災キャンプ事前研修会」 新発田市立小学校15校
- ・ 上越市教育委員会「防災教育研修会」 上越市立小・中学校70校
- ・ 県内小・中学校22校 ・新潟県立新潟県央工業高等学校

見附市立葛巻小学校 ペットボトルで救助道具づくり・川流れ体験

令和2年7月27日（月）9:30～11:10 対象：第4学年



「ペットボトルで救助道具づくり」「川で浮いて待ての体験」を行った。

川の水の冷たさや川底の歩きづらさ、流れに身を任せることのわくわくとドキドキを感じながら、楽しく「浮いて待ての体験」を終えた。最後に、川は楽しさと怖さの2つの顔があること、安全に楽しく遊ぶためには、皆が川あそびのルールを守ることを伝えた。

上越市教育委員会 令和2年度 防災教育研修会

令和2年11月18日（水）14:30～16:45 対象：上越市内小・中学校の管理職または防災教育担当職員

上越市教育委員会主催の防災教育研修会にて、避難所運営ゲーム HUG（ハグ）の体験と、その体験から「子どもは何を学ぶのか？どのような力を育める可能性があるのか？」を考えるワークショップを実施した。



【参加者の声】

自校の災害への備えや対応マニュアル等について今一度見直そうと考える機会となった。東日本大震災から10年目を迎える今年度に、「防災」やそれを通じた「自助・共助」などをテーマとして、総合的な学習の時間を展開している学校も多くあると思う。当校でも5年生がそういったテーマで活動しているので、今回の研修の内容を伝えたいと思う。

2. 地域及び家庭の防災教育支援事業



○乳幼児のいる家庭向け防災講座を計 6 回実施した。

- ・新潟市西地区公民館子育てひろば「べったん」防災講座
- ・新潟の子育てママの居場所 ほっとカフェ（新潟市西区）
「子育てママによるパパママ向けのやさしい防災講座」計 3 回
- ・長岡市子育ての駅「すこやか」「やまっこ」

○地域向けの防災講座や研修会、親子向け防災講座等を計 10 回実施した。

- ・新潟市長浦コミュニティ協議会 防災マニュアル検討会
- ・秋葉区社会福祉協議会 親子向け・地域向けの防災講座 各 1 回
- ・豊栄地区コミュニティコーディネーター講座
- ・長岡市総合防災訓練のサポート
- ・長岡市阪之上コミュニティセンター 親子向け防災講座
- ・長岡市川崎コミュニティセンター 洪水ハザードマップ勉強会 計 3 回
- ・新潟市文化創造推進課「こどもプロジェクト 2020」



3. 防災教育の推進に関する交流・イベント事業

<長岡市中越メモリアル基金事業> イザ!カエルキャラバン! in ながおか

令和3年3月7日(日) 13:30 ~ 15:30 会場:長岡震災アーカイブセンターきおくみらい・まちなかキャンパス長岡
対象:長岡市内の保育園・幼稚園・認定こども園・小学校に通う子どもと保護者(子ども28名・保護者20名 計48名)



新型コロナウイルス感染予防対策を徹底して、今年初開催した。
感染症対策として、受付で子どものカエルフェイスシールドを配付し、
参加者・スタッフ全員がフェイスシールド着用でイベントを実施した。
1 プログラム体験ごとにカエルポイントがもらえるスタンプラリーを企画。
親子でカエルポイントを楽しく集めて、景品と交換した。

<防災体験プログラム>

- ・毛布で担架タイムトライアル ・葛巻小の「なまずの学校」
- ・ざいたくひなんグッズなあに?クイズ
- ・ぼうさいまちがいさがし きけんはっけん!
- ・防災カードゲーム「シャッフル」 ・カエルフェイスシールド・紙食器づくり

【参加者の声】

- ・歩いて次のところへ行くのが楽しかった(子ども)
- ・コロナ禍の中、他の家族と協力して取り組めた。災害のときもこういった協力が大事。(保護者)
- ・感染症対策をしながら、子どもでもわかるように説明してくれて、楽しく参加できた(保護者)



4. 安心安全なまちづくり支援事業

<北区防災士の会スキルアップ事業>

委託機関：新潟市北区地域総務課 実施期間：①令和2年11月～令和3年3月、②令和3年5月～現在

・新潟市北区地域総務課が事務局を務める「北区防災士の会」のスキルアップ事業として、行政と防災士とで作成する「北区河川別ハザードマップ（発行：新潟市北区地域総務課、監修：北区防災士の会、制作協力：ふるさと未来創造堂）」の作成支援業務として、計4回の意見交換会の企画・運営を実施し、意見交換会の内容を反映させた各種資料の作成を行った。

・完成したハザードマップは令和3年7月に北区内の全戸配布を予定しており、配布後には各地域への説明会や出前講座を北区地域総務課と北区防災士の会で行う。そのため、令和3年5月から同事業で、地域への説明資料の検討と作成、伝え方の練習会の企画・運営を実施している。



北区役所だより令和3年6月20日号より

<新潟市南区地域防災訓練資料集作成業務>

委託機関：新潟市南区地域総務課 実施期間：令和2年～令和3年3月

・新潟市南区における災害時の自助・共助が浸透した安心安全なまちづくりを進めるため、効果的な防災訓練の設計や災害対応に役立つ資料集の企画・作成を行った。

・既存の様々な地域防災に関する資料や当法人で作成した教材を収集・整理し、5つに分類（① 自主防災訓練の計画立案のための資料、② 防災グッズの作成のための資料、③ 防災基礎知識習得のための資料、④ サバイバル術習得のための資料、⑤ その他参考資料）した「新潟市南区防災訓練資料集～防災虎の巻～」として取りまとめ、バインダー冊子として納品した。資料集を作成・配布で終わりではなく、配布後に各地域が資料を有効に活用

できる支援体制の検討が不可欠なことを伝え、今後の防災士の育成事業等とつなげる必要性を提案した。



<その他安心安全なまちづくり支援業務>

新発田市 市民まちづくり支援課 在住外国人防災セミナー

令和2年10月4日（日）9：30～12：30 対象：新発田市・胎内市在住の外国人住民



新発田市・胎内市の在住外国人を対象に防災セミナーを実施した。

災害時や避難所のお話や災害時に役立つアプリ・SNSの活用紹介、給水バックの使い方、災害食の作り方実演、グッズ作り体験等を行った。

今年は感染症対策のため、地域の方や参加者同士で話し合いをする時間を設けられなかったが、「どのタイミングで避難行動をとれば良いか」や「日頃からできる備えは」など、参加者からの質問に全体で答えながら、参加者の不安や悩みの共有と解消につなげた。

5. よりよい未来を創る事業

<長岡市中越メモリアル基金事業> こども防災未来会議[®]2020

令和2年12月12日(土) 10:15 ~ 12:30

配信会場: 長岡震災アーカイブセンターきおくみらい (Zoomでのオンライン開催 & YouTubeLiveでライブ配信)

参加者数: 合計64名 (内、オンライン参加者 5校47名、会場参加者 1校17名)

YouTubeLive 視聴者数: 約200名 (保護者等)



1. 防災かべ新聞コンクール表彰式・発表会

会場・オンライン上での表彰式を実施。グランプリチームの発表映像を上映し、子どもたちから「他の学校の人とはどんな新聞を書いたのか、何を伝えたいのかなど画面越しだけど知れて良かった」との声があった。

2. 2020年度 こども防災未来宣言ディスカッション

～ 防災訓練ワクワク化計画！親子が“楽しく”学べる防災訓練を考えよう！～

防災かべ新聞で学んできたことを振り返りながら、「親子で楽しみながら学べる防災」「その活動で伝えたいこと」をグループに分かれてアイデアを出し合った。

「防災クッキングの体験→自分たちでできることを増やす」「防災スタンプラリー・防災すごろく

く・防災伝言ゲーム・防災かるた→防災訓練の楽しさ・大切さ・絆を深めること」などたくさんのアイデアが提案され、その提案を令和3年3月に開催した「イザ！カエルキャラバン in ながおか」にて、子どもたちと一緒に提案を実現させた。

6. 情報発信事業

株式会社 エヌ・シー・ティ 防災教育映像コンテンツの共同作成



ながおかケーブルテレビの放送地域の住民や子ども向けの防災教育に関する映像コンテンツを(株)エヌ・シー・ティ様と共同で作成した。

「水害時の避難行動」「家庭でのものの備え」「防災クイズ(水害編)」の計3本の映像コンテンツを作成し、放送地域の住民や子どもに、防災をもっと身近に考える機会を提案した。

※作成した映像コンテンツは、当法人のYouTubeチャンネルでも配信中

自主事業 みんなのBOSAIカフェ@にいがた「洪水災害のそなえて？」

令和2年8月6日(木)、12日(水)、20日(木)、26日(水) 19:30 ~ 20:50



勢力を増していく台風に頻発する豪雨に備えて、地域の洪水・土砂災害ハザードマップを確認し、洪水災害への備え方・考え方がわかるよう防災カフェを実施した。地震と違い、洪水災害はある程度予想が可能。情報を集めることで適切な早めの避難行動ができ、命を守れることや、TV やラジオ、インターネット等で届く情報の内、「警戒レベルと避難情報」を中心に、様々な情報が何を意味するのかを確認。

川の水位が気になる。けど、絶対に見に行ってはダメ。川の水位情報を確認できる防災アプリなどを紹介した。避難するにはどんな準備が必要なのか。普段からの準備は、防災グッズだけじゃない。家族との約束事も大切。洪水災害から命をまもる「適切で早めの避難」をするための「備え」について考えた。